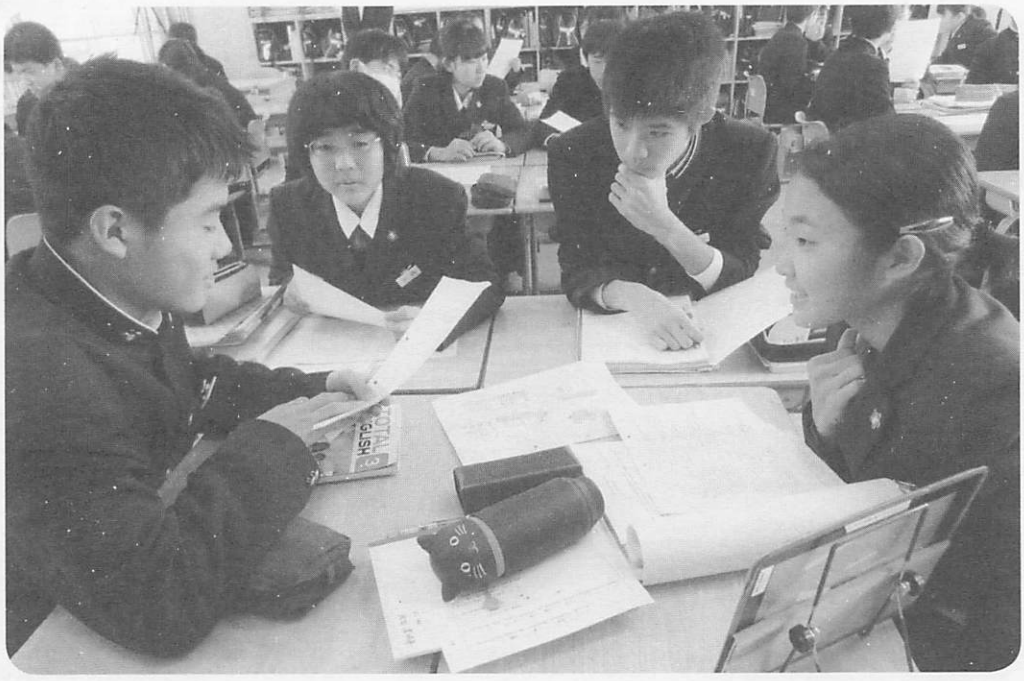
英語科

教科領域研究テーマ
【自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成】



英語科

自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成

実　践　者　向井　俊博，河野　　操，河野　圭美
愛媛大学研究パートナー　池野　　修，立松　大祐

第１章　はじめに

本校では，持続可能性が危機にある現代社会において，子どもたちが現在及び将来にわたって「持続可能な社会を形成し，それを支え続ける」ために主体的に行動できる資質・能力を育てることが「未来を拓く力」につながると考え，最終年次の研究を進めている。

外国語教育では，国際化の進展に伴い，多様な文化や異なる歴史的背景を持つ人々を理解し主体的に社会や世界と関わっていこうとする態度や，課題をよりよく解決することができる資質や能力が求められている。つまり，「生活や文化への理解や尊重」「国際理解」や「国際協調」の精神を養いつつ，「コミュニケーション能力」の向上を目指していくことが大切である。

そのため，英語科では，「持続可能な社会を支える資質・能力」として，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を育成することが必要であると考えている。授業では，パフォーマンス課題に向けた学習などの実践において，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などを設定し，様々な話題について話させることで思考力・判断力・表現力を育成している。また，論理的に思考し表現する学び合いの中で，情報や考えなどを積極的に発信し，相手とコミュニケーションを図りながら主体的に課題に取り組ませることを目指し研究を行っている。

昨年度までの研究において，パフォーマンス課題に向けた学習に加え，教科書を活用した技能統合型のインタラクティブなリーディング指導を行った。生徒は教科書の本文の内容をより深く理解し，内容に関連する自分の経験，意見，感想などを伝えることができるようになった。本年度も，協働学習での深い学び合いを通してよりよい人間関係を築かせながら，対話的な言語活動を重視した指導を行い，更にレベルの高い即興性のあるコミュニケーションが図れる生徒の育成を目指したい。

研究	研究者	研究テーマ	学年	単元名
その１	向井　俊博	積極的に英語でやり取りを行う生徒の育成 －リテリングの指導に工夫を加えて－	２年	Chapter 2 Lesson 4 Hiro in the U.K.
その２	河野　　操	統合的な運用能力を高める言語活動の工夫 －リーディング活動からスピーキング活動へ－	２年	Chapter 4 Lesson 8 Manga, Anime and Movies
その３	河野　圭美	自律的学習者が育つ英語授業 －リテラチャー・サークルの実践を通して－	３年	Chapter 4 Lesson 7 The Diary of Anne Frank

第２章　研究の実際

研究（その１）

積極的に英語でやり取りを行う生徒の育成

― リテリングの指導に工夫を加えて ―

（実践者）向井　俊博

１　研究テーマ設定の理由

「英語の授業で自分が自信のある活動は何か。」との４月に行ったアンケートでの項目（複数回答可）において，２年生１クラス（39名）は，「聞く活動」が37%（15名），「読む活動」が37%（15名），「書く活動」が23%（９名）に対し，「話す活動」と答えた割合が18%（７名）と課題があることが分かった。様々な国々の人たちと対話を通して自分の気持ちや考えを表現し伝えるために，自信をもって英語で話すことのできる生徒を育成することが必要である。そのために，自分の考えなどを相手に分かりやすく伝えたり，相手の考えを聞いたことに対して即興でやり取りをしたりするという「話す活動」を様々な場面で繰り返し行っていく必要がある。新しい中学校学習指導要領では，大きな特徴の一つとして，「話すこと」が「話すこと［やり取り］」「話すこと［発表］」に分けられた。互いの考えなどを発表するだけでなく，即興でのやり取りを重視する「伝え合う」ことが重要視されている。「話すこと［発表］」から「話すこと［やり取り］」に発展させるための効果的な指導と，生徒が積極的に英語でのやり取りを行おうとする意欲の向上につながる指導を行うことで，生徒は自信を持って自分の気持ちや考えを表現し伝えることができると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

教科書本文のリテリング（再話）を取り入れ，Lesson １より継続して行っていく。

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

英語科では，論理的思考力を「聞き手や読み手が理解できるように筋道を立てて分かりやすい英語で表現する力」としている。論理的思考力を向上させるために，ただ教科書本文のリテリングを行うだけでなく，その単元に関連した自分のこと，社会的なことを含めた「本文内容＋ａ」を発表させることで，自分のことについても筋道を立てて表現させる。さらに，「言いたい・聞きたい・質問してみたい」という生徒の学ぶ意欲を向上させ，英語でのやり取り・英語を使った学び合いにつなげたい。各単元の終わりには理解した内容や知り得た情報を整理する活動を行い，グループでの学び合いを通して，様々なまとめ方があることや，友達の表現のよさに気付かせることで，思考力・判断力・表現力を高めさせたい。発表の後には，６Ｗ１Ｈを意識した質疑応答などの活動をさせることで，話を膨らませたり，考えを引き出したりさせることによって，生徒の思考を深めさせる。６Ｗ１Ｈとは，５Ｗ１Ｈに“What ～ for…?”を付け加えたものであり，“Why?”よりも表現が柔らかいので，級友とやり取りを行う練習のときには，状況によって用いるようにさせている。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

コミュニケーション能力を高めるためには，思考力・判断力・表現力を向上させることが不可欠である。英語科における思考力とは，聞き手にわかるように，論理的に筋道立てて話すにはどうすればよいかを考えることである。判断力とは，教科書の内容をリテリングする際などに，教科書で使われている語句を取捨選択したり，キーワードを選んだりすることである。表現力とは，

話したいことを起承転結などコミュニケーションの型を使って聞き手を意識したまとめ方・話し方を行い，文法的にも正しく表現できることである。これらを意識して「リテリング＋α」を生徒に行わせたい。また，やり取りに関して，授業の導入時に英語で問答ゲームを行っていくことを帯活動とする。毎回教師がテーマを与え，生徒がペアで６Ｗ１Ｈを中心に質問をしたり，答えたりしていく。帯活動で定着させていくことで，「リテリング＋α」でもやり取りをスムーズに行えるようにさせたい。

(3) パフォーマンス評価の充実

年に６回，パフォーマンステストを計画しており，その題材は，「入国審査」「道案内」「海外旅行計画紹介」「私の職場体験」「世界遺産紹介」「好きな漫画･アニメ紹介」である。その際，「話すこと」の評価規準及びルーブリックを事前に生徒に示す。キーワードを用いたり，要点を簡潔に言ったりするなどのポイントを押さえた発表や，発表後の質疑応答についてより良い規準を生徒に意識させ，英語で会話をするときの大切なポイントを生徒に理解させたい。

３　研究の実際

(1) 単元名　　TOTAL ENGLISH 2 Chapter 2 Lesson 4 Hiro in the U.K.

(2) 「逆向き設計テンプレート」による単元計画

第１段階：求められている結果	
【本単元における目標】 ・本文の対話を読み，ヒロがロンドン滞在中に行ったこと（レストランでの食事，買い物，サッカー観戦の後，パリ観光の計画）の対話の内容を理解し，ヒロのロンドン滞在記を作成することができる。 ・自分の海外旅行の計画を相手に分かりやすく発表し，その内容について，級友と英語でやり取りをして，考えを共有することができる。	
【本質的な問い】 他の人の経験を相手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいか。また，自分の考えを相手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいか。	
【永続的な理解】 他の人の経験を相手に分かりやすく伝えるには次のことが必要である。まずは，他人が行ったことや考えたこと，その出来事に関する文化的な背景知識などを理解することが必要である。その際に，その出来事に関するキーワードや６Ｗ１Ｈを意識しながら，相手の行動や場面の要点を簡潔に捉えることが重要である。次に，他の人の経験したことをイメージ化し，そのイメージを意識して自分の言葉で話すことで，他の人の経験を正しく豊かに伝えることができる。 自分の考えを相手に分かりやすく英語で表現する際は，コミュニケーションをする上での型が有効である。話の入り方に注意すること，時系列などを意識して意図的にまとめること，伝える項目を精選したり適切な順序に並べ替えたりして整理すること，キーワードを使うことが必要である。そして，簡単な英語を用いて感想を述べたり，相手の話した内容に関するやり取りをしたりして，内容を深めていくことで，相手に分かりやすく伝えることができる。また，そのような内容を話す際は，相手の反応を見ながらゆっくり話すなど，発表に関するコミュニケーションスキルも必要である。	
【生徒は次のことができるようになる】 ・話型を参考に，ヒロのロンドン滞在記を，聞き手に分かりやすく伝えることができる。 ・友達の意見，感想，質問を聞いて，応答したり，関連した質問をしたりすることができる。	
第２段階：評価のための証拠	
【パフォーマンス課題】 あなたは友達のヒロがイギリスで体験してきたことをたくさん聞きました。あなたの友達Ａさんはそれを知りたがっています。それを友達Ａさんに分かるように伝えてください。また，あなた自身も海外旅行をしたいと考えています。ヒロのことを話した後で，あなたの海外旅行計画も付け加えて紹介してください。	
【他の根拠】 ・リテリングの発表の様子　・ペアでのＱ＆Ａの活動の様子　・ワークシートの記述　・自己評価表	
第３段階：学習計画（全12時間）	
○shall，may，must，have toを用いた文構造を理解する。	４時間
○ヒロのイギリスでの生活について理解する。	４時間
○道案内をすることができる。	２時間
○ヒロのイギリスでの生活を読んで，ロンドン滞在記を作成し，自分の海外旅行の計画も作成し発表する。	２時間

(3) 授業の実際（11／12時間）

①主　題　ヒロがロンドン滞在中に行ったこと・考えたことを滞在記としてまとめ，自分の海外旅行の計画を付け加えて英語で発表し，質疑応答をしよう。

②ねらい

○失敗を恐れずリテリングしようとしたり，積極的に質疑応答をしようとしたりする。

○ヒロのロンドンでの生活を要約したり，自分の海外旅行の計画を伝えたりすることができる。

③展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　英語で問答ゲームを行う。（ペア）	3	○ “Which do you want to visit, the U.K. or France?” のテーマで話そう。	○論理的に述べさせるために，結論を先に言わせ，６Ｗ１Ｈを意識させた。 ○質問やつなぎ言葉などを用いて，会話が１分間以上続くようにさせた。
CAN-DO　I can tell my classmates about Hiro's life in London and my own trip plan.			
2　内容を復習する。（一斉）	4	○本文を音読しよう。	○音読させることで，内容を思い出させた。
3　本文のキーワードを確認する。（一斉）	5	○キーワードを確認しよう。	○要約する際に必要となる最低限の語句を確認させることにより，リテリングを行いやすくさせた。
4　リテリングの原稿を作成する。（一斉）	12	○キーワードを基にLesson ４のリテリング文を作る。自分の行きたい国について海外旅行の計画を英語で書こう。	○論理的に思考し，表現できる力が身に付くよう，自分の考えをまとめるときに，書く順序やキーワードを含めることなどを意識させた。
5　書いた英文を音読する。（個人・ペア）	8	○ルーブリックを確認し，英語を話す際のポイントを意識して，リテリングの練習をし，ペアに聞いてもらおう。	○ルーブリックを用いて発表や質疑応答の練習させることで，目指すべき発表・質疑応答のイメージを持たせた。
6　英語で発表し，質疑応答を行う。（グループ） ↓ （全体）	16	○グループで発表を行う。また発表内容を聞いて，コメントをしたり，質疑応答をしたりしよう。 **A：What food will you eat there?** **B：I will eat curry and nan there.**	◇聞き手に分かるように発表をしたり，積極的に質疑応答をしたりしようとした。（観察） ◇ヒロのロンドン滞在記と自分の旅行計画をまとめることができた。　（ワークシート）
7　本時の学びを振り返る。（個人）	2	○本時のCAN-DOやグループ活動での学びについて振り返ろう。	○自己評価カードを用いて振り返りを行わせることで，次の自己表現活動への意欲を持たせた。

(4) 生徒の学びの実際

今回の授業で用いたルーブリック（**資料１**）による評価の結果（２年生１クラス39名対象），リテリングのイラストや英文を作らせたときのワークシート（**資料２**），生徒の感想は次頁のとおりであった。ルーブリック表は授業の最後に振り返りで用いて評価させた。リテリングのワークシートは，上にイラスト，下にはイラストに関連した英文を作成する形式を用いた。発表は，イラストを実物投影機を用いて映し出し，リテリングを行った。

Lesson 4 Retelling 自己評価 ルーブリック表　CLASS (　) NO. (　) NAME (　　)

☆ 今日の活動における自分の発表・やり取りの内容を振り返ろう。該当する項目に○をつけよう。
ちなみに、1回・2回や1・2人…とありますが、これは1人の発表につきということで、全体を平均して振り返りましょう。

〈関心・意欲・態度〉

評価項目		A	B	C	D
話すこと［発表］	原稿を見ずにできたか。	できた。	1回見た。	2回以上見た。	3回以上見た。
	聞き手とアイコンタクトができたか。	全員と目が合った。	数人と目が合った。	1・2人と目が合った。	できなかった。
	笑顔でできたか。	よくできた。	まあできた。	あまりできなかった。	できなかった。
話すこと［やり取り］	相手の話した内容をアイコンタクトを意識したり，うなずいたりしながら聞けたか。	よくできた。	まあできた。	あまりできなかった。	できなかった。
	質問を即興でできたか。	2回できた。	1回できた。	しようとしたが，できなかった。	質問を考えることが，できなかった。
	英語で感想やコメントを言えたか。	2文以上言えた。	1文言えた。	言おうとしたが，言えなかった。	何を言ったらよいか，わからなかった。

〈発表〉

評価項目		A	B	C	D
話すこと［発表］	音声・イントネーション・アクセントなどを用いて，大事なところを強調して話すことができたか。	よくできた。	まあできた。	あまりできなかった。	できなかった。
	チャンクを意識して，区切りを入れて，話すことができたか。	よくできた。	まあできた。	あまりできなかった。	できなかった。
	L4A・4B・4C・4Dの内容，自分の海外旅行計画について，すべて話すことができたか。	よくできた。	まあできた。	あまりできなかった。	できなかった。
	キーワードを用いて，要点を押さえることができたか。	よくできた。	まあできた。	あまりできなかった。	できなかった。
	接続詞を用いたり，時系列に沿ったりして話すことができたか。	よくできた。	まあできた。	あまりできなかった。	できなかった。

☆ Lesson4のRetellingの発表・やり取りを行って，今まで(Lesson1～3のRetelling)と比べて良くなったこと，次に向けての改善点を書きましょう。

〈良くなったこと〉

〈次に向けての改善点〉

資料１　パフォーマンス課題で用いたルーブリック

〈振り返りにおける，生徒による自己評価〉

1．原稿を見ずにできたか。

A	できた。	15人
B	１回見た。	16人
C	２回以上見た。	5人
D	３回以上見た。	3人

2．聞き手とアイコンタクトができたか。

A	全員と目が合った。	28人
B	数人と目が合った。	8人
C	１・２人と目が合った。	2人
D	できなかった。	1人

3．笑顔でできたか。

A	よくできた。	28人
B	まあできた。	8人
C	あまりできなかった。	3人
D	できなかった。	0人

4．アイコンタクトを意識したり，うなずいたりしながら聞けたか。

A	よくできた。	28人
B	まあできた。	10人
C	あまりできなかった。	1人
D	できなかった。	0人

5．質問を即興でできたか。

A	２回できた。	13人
B	１回できた。	18人
C	しようとしたが，できなかった。	8人
D	質問を考えることができなかった。	0人

6．英語で感想やコメントを言えたか。

A	２文以上言えた。	15人
B	１文言えた。	14人
C	言おうとしたが，言えなかった。	9人
D	何を言ったらよいか，わからなかった。	1人

7．イントネーション・アクセントなどを調整して，大事な部分を話すことができたか。

A	よくできた。	28人
B	まあできた。	8人
C	あまりできなかった。	3人
D	できなかった。	0人

8．チャンクを意識して，話すことができたか。

A	よくできた。	23人
B	まあできた。	14人
C	あまりできなかった。	2人
D	できなかった。	0人

9．L4A・4B・4C・4Dの内容，自分の海外旅行計画について，すべて話すことができたか。

A	よくできた。	27人
B	まあできた。	8人
C	あまりできなかった。	3人
D	できなかった。	1人

10．キーワードを用いて，要点を押さえることができたか。

A	よくできた。	31人
B	まあできた。	7人
C	あまりできなかった。	1人
D	できなかった。	0人

11. 接続詞を用いたり，時系列に沿ったりして話すことができたか。

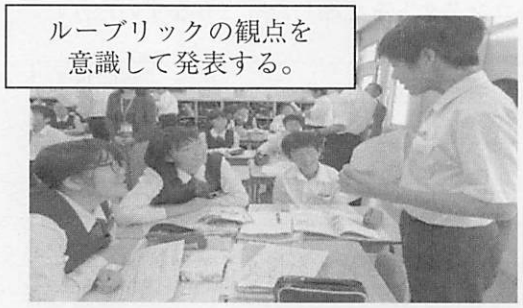
A	よくできた。	29 人
B	まあできた。	6 人
C	あまりできなかった。	4 人
D	できなかった。	0 人



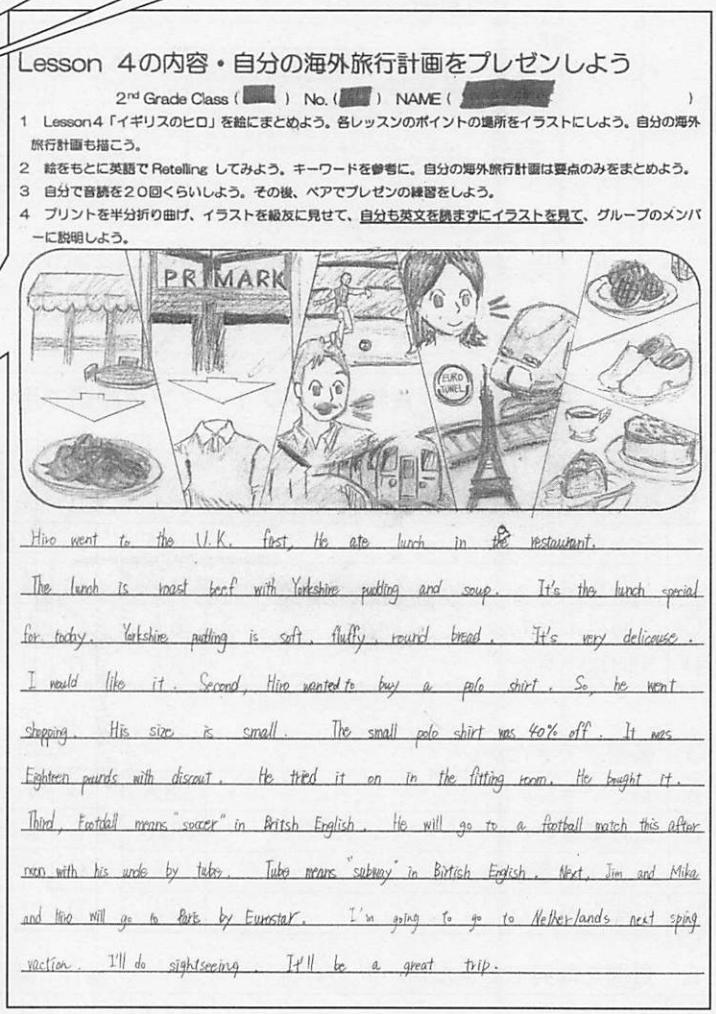
英語での問答ゲームの様子



リテリングの発表の様子



リテリングの発表とやり取りの様子



Lesson 4の内容・自分の海外旅行計画をプレゼンしよう

2nd Grade Class ( ) No. ( ) NAME ( )

1 Lesson4「イギリスのヒロ」を絵にまとめよう。各レッスンのポイントの場所をイラストにしよう。自分の海外旅行計画も描こう。

2 絵をもとに英語で Retelling してみよう。キーワードを参考に。自分の海外旅行計画は要点のみをまとめよう。

3 自分で音読を２０回くらいしよう。その後、ペアでプレゼンの練習をしよう。

4 プリントを半分折り曲げ、イラストを級友に見せて、自分も英文を読まずにイラストを見て、グループのメンバーに説明しよう。

Hiro went to the U.K. first. He ate lunch in the restaurant. The lunch is roast beef with Yorkshire pudding and soup. It's the lunch special for today. Yorkshire pudding is soft, fluffy, round bread. It's very delicious. I would like it. Second, Hiro wanted to buy a polo shirt. So, he went shopping. His size is small. The small polo shirt was 40% off. It was Eighteen pounds with discount. He tried it on in the fitting room. He bought it. Third, Football means "soccer" in British English. He will go to a football match this afternoon with his uncle by tube. Tube means "subway" in British English. Next, Jim and Mika and Hiro will go to Paris by Eurostar. I'm going to go to Netherlands next spring vacation. I'll do sightseeing. It'll be a great trip.

資料２　リテリングのワークシート

〈生徒の感想・話すこと［発表］に関して〉　○…良かった点　●…改善点

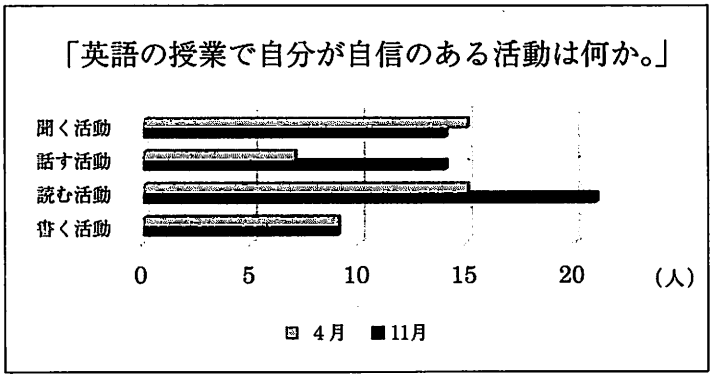
○聞く人に分かりやすく要約できるようになってきた。
○原稿を見ずに，相手の目を見て笑顔でハキハキと発表できるようになってきた。
○接続詞を使って１文にまとめたり，イラストを指で示したりしながら言えるようになった。
●聞き手の反応を見て，ゆっくりと話したり，ジェスチャーをつけたりしたい。
●“he”“his”など代名詞を正しく使って，短文を意識して，要点をまとめていきたい。

〈生徒の感想・話すこと［やり取り］に関して〉　○…良かった点　●…改善点

○相手に２文以上質問をすることを意識してできた。
○質問を分かりやすく伝えるために，ジェスチャーを用いることができた。
○発音やイントネーションが良くなってきたように思う。
●質問や感想を言おうとしたけど言えなかったので，次は言えるようにしたい。
●相手の発表をよく聞いて，関連した質問が即興でできるようになりたい。

4　成果と課題

成果としては，はじめは英語でのリテリング・やり取りに抵抗を感じている生徒がいたが，実践後は意欲的に英語で級友と話をしたり，パフォーマンステストの表現の評価項目が向上したり，積極的に英語を用いる姿勢が見られるようになった。生徒に11月に「英語の授業で自分が自信のある活動は何か。」という内容のアンケート（複数回答可）を行った。２年生１クラス（39名）は，「読む活動」が53%（21名），「話す活動」が35%（14名），「聞く活動」が35%（14名），「書く活動」が23%（９名）であった。「話す活動」への意欲が４月に比べて大きく上昇した。教員から見た指導の成果や生徒の成長について，４技能の観点でまとめると，次の表のとおりである。



資料３　英語で自信のある活動に関するアンケート

〈聞くこと〉 やり取りを行う際に，級友の話を聞いていないと反応をすることができないので，集中して聞いたり，わからない語句を聞き返したりする場面が見られた。
〈話すこと［発表］〉 単元のまとめとして行うリテリングやパフォーマンステストを継続したことや，ルーブリックの評価表を事前に提示したことで，より良く話すことができるようになってきた。
〈話すこと［やり取り］〉 問答ゲームが定着してきており，質疑応答では，“Do you ～？”などの“Yes.”または“No.”で答える質問に加え，６Ｗ１Ｈを用いて即興で質問したり，答えたりできるようになってきた。
〈読むこと〉 要点やキーワードを意識しながら読むことができるようになってきた。イラスト化することで，話の概要をイメージでとらえるようになってきた。
〈書くこと〉 要点を書くことがスムーズにできるようになってきた。イラストの内容に関する英文を，キーワードを参考にしながら，限られた時間内に円滑に書いていた。

今後の課題としては，三つある。一つ目は，生徒が英語でのやり取りをできるだけ間延びしないように行うことである。質問や感想を即興で話せるようになるために，「自己表現の後に他の生徒と意見のやり取りを行う」という機会をLesson ５以降でも行い，継続していく必要がある。そして，やり取りを円滑に行うためにコミュニケーションの型を用いて問答ゲームの中で練習させたり，授業中に３人以上の生徒で会話を行わせたり，一つのテーマについて議論する場面を設定したりしていきたい。二つ目は，評価に関することである。ルーブリックを用いることで生徒の課題が見えてきたが，項目が多く評価活動が複雑になってしまった。評価の項目を厳選することにより，生徒の課題を焦点化させ，生徒が意識的に課題解決に向かえるようにしたい。また，パフォーマンステストを行った後に，現在の課題・次への改善点などを生徒同士で振り返ったり，教員が生徒に伝えたりして，生徒自身が認識し意識して次の学習に臨ませたい。三つ目は，書くことに自信が持てていないことである。文法的に正しく書けないことやつづりを間違うことに課題を感じる生徒がいた。添削など個別に支援をすることで，生徒に自信を持たせていきたい。

研究（その２）

統合的な運用能力を高める言語活動の工夫

― リーディング活動からスピーキング活動へ ―

（実践者）河野　　操

１　研究テーマ設定の理由

高度情報化社会において，大量に氾濫する情報の中で，自分にとって必要な情報か必要でない情報かを取捨選択する能力が必要となってくる。また，個性や考え方が異なる他者のことを理解し，意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り，よりよい関係を築こうとする態度も求められる。外国語教育では，これらの能力を高めるために，スキルの習得だけでなく，習得したスキルを生かし，互いの考えを理解し合い，折り合いをつけながらよりよい関係を築こうとする態度の育成を目指している。必要な情報を選び，よりよい人間関係を築こうとする態度は，「持続可能な社会」の形成に必要な資質・能力につながるものであると思われる。

本研究では，３年目の集大成として，内容理解の言語活動を通して，まとまった英文の内容を理解し，内容について質問したり，要約したり，自分の意見や感想を論理的に述べたりすることがより効率的にできるような力を付けさせたい。そのためには，読解力，作文力，口頭表現力などの統合的な運用能力をさらに高める必要がある。昨年度の課題として，語彙力の低さが挙げられた。得た内容を要約してアウトプットするための作文力，口頭表現力を高めるために，情景描写等の活動に取り組ませて，語彙力の強化も図りたい。多様な情報の中から必要な情報を受け取り，理解するとともに，仲間と学び合いながら課題を解決することによって，統合的な運用能力を高めることができると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

教科書の本文内容を利用し，内容把握や要約をさせたり，内容について意見・感想を述べ合ったりさせる。内容把握に関しては，単なる読み取りだけにとどまらず，問答ゲームの手法を効果的に用いて内容に関する質問を考えさせることにより，より深い内容理解を促したい。また，場面のイラストを基に，場面を説明する要約文を作成させたり，内容に関する意見や感想を述べさせたりすることによって，論理的思考力を育成したい。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

教科書の活動一つ一つは，各レッスンや単元における英語学習においてテキスト等とつながって重要な役割を果たしている。しかし，そこからさらに発展した内容や言語を駆使して，教室外での言語活動が可能となるような課題解決を目的とした活動が必要である。以上のことから，教科書の活動を基にして，どのような内容を組み込むか工夫することにより，また，目的に応じて場面設定をすることによって，コミュニケーション能力を高めたい。

(3)　パフォーマンス評価の充実

活動中に相互評価をさせたり，活動後に自己評価をさせたりすることにより，次の活動の改善に役立たせたり，よりよい内容の英文になるよう工夫させたりする機会を持たせる。また，CAN-DOリストと関連させ，修正を加えながら到達目標を考慮し，授業改善にも努めたい。今までできていなかったことが「できるようになった」，活動を重ねて「前よりよくなった」ということを実感させることは，生徒が自己の成長を確認し，次の活動への意欲を高めることにもつながる。

3　研究の実際

(1)　単元名　TOTAL ENGLISH 2 Chapter 4　Lesson 8　Manga, Anime and Movies

(2)　「逆向き設計テンプレート」による単元計画

第１段階：求められている結果

【本単元における目標】
- as ～ asを使った原級比較，副詞の比較級と最上級を使って状態や動作を比べたり，接続詞 if，becauseを使って，条件や理由を表現したりすることができる。
- 世界における日本のマンガやアニメ，映画の現状を本文から読み取り，日本文化の良さを再認識するとともに，自分の好きなアニメやマンガについて紹介することができる。

【本質的な問い】
マンガやアニメ，映画などの日本文化の良さを再認識し，自分の好きなマンガやアニメについて意見交換するためにはどのようにすればよいか。

【永続的な理解】
日本文化の良さを再認識するために，まずは，内容を十分に理解する必要がある。日本文化をマンガ，アニメ，映画に絞り，紹介された内容を効率的に読み取ることで，より深くたくさんの内容を理解することができる。
また，読み取った内容を参考にし，紹介したいことを論理的な英文にまとめることによって，テーマに沿った内容で意見交換をすることができる。

【生徒は次のことができるようになる】
- 内容を読んで理解する外国語理解の能力，自分と関連する内容について英語で話したり，説明したり，書いたりする外国語表現の能力を高めることができる。
- 意見交換をする中で，より思考の深まりを図るために，主語＋動詞が整った文を使って根拠を明らかにしながら述べたり，６Ｗ１Ｈを用いて相手に質問したりしながら話をすることができる。

第２段階：評価のための証拠

【パフォーマンス課題】
あなたはコミックマーケットでブースを出し，マンガやアニメの良さを外国人のアニメファンに紹介したり，意見交換したりすることになりました。日本のアニメやマンガの魅力が伝わるように，表現を工夫したり，具体物を示したりしながら紹介しなさい。

【他の根拠】
- 行間の「つぶやき」の内容　- 教科書本文のイラストを説明する様子　- ワークシートによる記述　- 自己評価表

第３段階：学習計画

• 原級による比較の文構造を理解し，それを使って表現する。 • 副詞の比較級，最上級を含む文構造を理解し，それを使って表現する。 • 接続詞 if，because を含む文構造を理解し，それを使って表現する。	３時間
• 日本のマンガやアニメについて書いているメールの内容を理解する。 • manga と comics の違いについて対話をしている内容を読み，自分の好きなアニメやマンガを説明したり，意見を述べたりする。 • 日本の映画についての内容を読み，日本の映画が世界に与えた影響について理解する。	３時間

(3)　指導の実際（５／６時間）

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　• 予想される生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　前時の復習を兼ねフランスで行われたJapan Expoの映像を見る。（一斉）	8	○What do you think about the report? • There are many foreign people there. So I think many foreigners are interested in Japanese manga and anime. • I don't know Japanese manga and anime are so popular.	○映像を見て自由に感想を述べさせることで，前時の内容を振り返らせるとともに，本文内容について興味を持たせる。
2　本文の内容を理解する。（個人） ↓ （一斉） ↓ （ペア）	18	○本文には表れていないMs. Allen と Miku のつぶやきを想像しよう。 ○音読練習をしよう。 ○対話の内容を英語で説明しよう。 • Ms. Allen is talking about anime and manga with Miku. Ms. Allen likes anime. She likes "ONE PIECE" the best.	○内容を踏まえて，本文に書かれてない部分を想像させることによって，より深く読み取らせる。 ◇manga と comics の違いを読み取り，内容を説明できているか。（ワークシート）
3　自分の好きなアニメやマンガを紹介し合う。（グループ） ↓ （一斉）	20	○自分の好きなマンガやアニメを紹介し合おう。 • I'm going to talk about CONAN. This is a story of a detective. He is a high school student, but he looks like an elementary school student now. He is clever and cute. He can always solve a difficult problem. I like reading manga and watching anime on TV. Why don't you read CONAN? I'm sure you enjoy it.	◇自分の好きなマンガやアニメを説明したり，意見や感想を述べ合ったりすることができているか。（観察） **○主語＋動詞が整った文を使って根拠を明らかにしながら述べさせたり，６Ｗ１Ｈを用いて質問させたりして，相互の考えを深めさせる。**
4　学習内容を振り返る。（個人）	4	○意見交換した活動について振り返ろう。 • 既習表現使って，自分の意見や感想を即興で述べることができた。 • 単語が分からなくて，自分の考えが言えなかった。 • 英語を書いたり話したりすることに対する苦手意識が減った。	○本時の活動を振り返らせることで，次時への意欲を持たせる。
授業研究の視点	○主語＋動詞が整った文を使って根拠を明らかにしながら述べさせたり，６Ｗ１Ｈを意識した内容理解や意見交換をさせたりする活動は，論理的思考を高めるものであったか。 ○意見交換する活動は，すべての生徒が主体的に学び，表現力を高められるものであったか。		

日本のアニメが世界中でどのくらい人気があるかということや，日本とアメリカのマンガの違いを扱った教科書の内容を題材にして，実際の指導を行った。まず導入では，パリで実際に行われたJapan Expoの動画を観て意見や感想を述べ合う活動を行った（**資料１**）。次に，本文の対話文の内容をより深く理解するために，行間のセリフを「つぶやき」として考えさせた（**資料２**）さらに，イラストを用いて内容が理解できているかどうかの確認も行った。（**資料３**）

(4) 生徒の学びの実際

Step 1 「Japan Expo in Paris」をみて感想や意見を言おう。

I think that Japanese anime and manga are popular around the world.

Many people in the world like cosplaying.

I don't know "NARUTO", but there are a lot of fans of "NARUTO" in France.

資料１　動画「Japan Expo」を見た後の意見・感想

P112 Lesson 8B　　Comprehension ①

2-(　)No(　)Name(　)

◎ Let's try "TSUBUYAKI" in the dialogue of Ms. Allen and Miku.

(Miku): Which do you like better, anime or Western animation?
Ms. Allen: I like anime better than Western animation.
(Ms.Allen): Anime is wonderful!
Miku: What anime do you like the best?
(Miku): I like "DRAGON BALL" the best. It is cool.
Ms. Allen: I like "ONE PIECE" the best.
(Miku): I see. It is popular in Japan, too. I watch it on TV every week.
Miku: How about manga?
(Miku): I have a lot of manga.
Ms. Allen: Well, I like manga, but I like Western comics better than manga.
(Ms.Allen): I read manga only once.
Miku: Why?
(Miku): There are many pictures in manga, so I can understand easily.
Ms. Allen: Because I can read them more easily than manga.
(Ms. Allen): Reading manga is hard for me.
Miku: What do you mean?
(Miku): Manga is the same as comics, right?
Ms. Allen: You know, we read books from left to right.
(Miku): Yes.
But when we read manga, we must read from right to left.
(Miku): Oh, really? I don't know. We can read manga in English from left to right, I thought.

資料２　対話の行間を想像した「つぶやき」を記入したワークシート

◎ Let's explain each picture of the contents in the textbook.

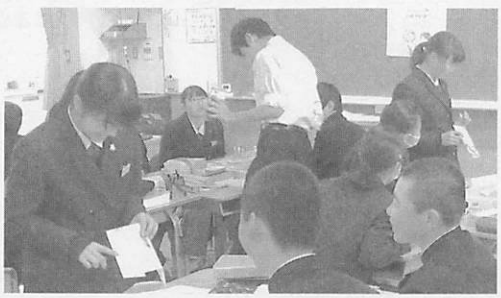
1 第１の場面	Ms. Allen is talking about her favorite things.
2 第２の場面	Ms. Allen is talking about anime and manga with Miku. Ms. Allen likes anime. She likes "ONE PIECE" the best.

資料３　本文内容を説明したワークシート

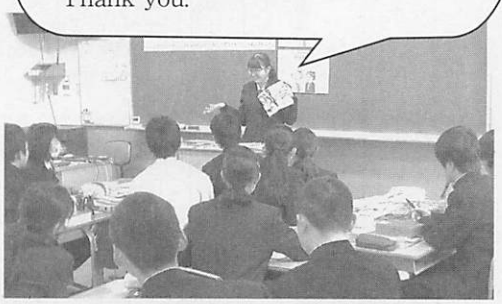
Step 2 「紹介したい日本のマンガやアニメ」（ となりの トトロ ）について
※内容のメモ（日本語）→キーワード（英語）→構成→英語（頭の中で）８文程度

	メモ (Japanese)		キーワード (English)	
内容	宮崎駿	子どもたち	Miyazaki Hayao	children
	トトロ	友達る	Totoro	come together
	キャラクターグッズ	遊ぶ	character goods	play
	大きい		big	
	かわいい		cute	
	日本の田舎		the country in Japan	
	不思議な		mysterious	
	生き物		living creatures	

I'll tell you about my favorite anime. I like "Totoro" the best. Mr. Miyazaki made it. "Totoro" is one of characters in that anime. It is a mysterious living creature in the country in Japan. It is big and cute. Only children can see it. I have many character goods. Thank you.



班内発表会の様子



学級内で好きなマンガを発表した様子

Aよくできた　Bできた　Cあまりできなかった

番号	評価項目	評価 (%)		
		A	B	C
1	Ms. Allen と Miku の対話の中に，つぶやきを入れることができた。	95	5	0
2	manga と comics の違いを理解することができた。	90	10	0
3	自分の好きなアニメやマンガを聞き手に分かりやすく説明することができた。	73	24	3
4	友だちの説明を聞き，質問や意見を伝えて，意見交換をすることができた。	60	32	8

資料4　授業後の自己評価表

(生徒の感想)

○今まで習ってきた文法を駆使して英文を考えることが楽しかった。また，他の班の意見を聞くことで新たな視点を身に付けることができた。

○自分の今持っている知識（単語や文法）を最大限に使おうと努力することができてよかった。

○より相手に上手く伝える言い方はないか考えることができた。

○臨機応変に対応する英語力が必要だと思った。

○意見を考えようとしたときに，分からない単語がたくさんあって，単語力が必要だと思った。

○自分とは違った意見もあり，おもしろいし，考えを広げることができた。

4　成果と課題

○英語で話す機会を持ちたいと考える生徒が多いため，英語での意見交換は楽しんで取り組める活動になった。

○単なるスピーチや単語を並べただけの対話ではなく，相手の意見を聞いてその内容に関連させた内容を述べたり，根拠や理由を含めた英文を述べたりすることができた。

●語彙力の未熟さから，即興や臨機応変に対応する難しさがある。

●生徒同士が1対1で意見を交換し合う英語力を高める必要がある。

●状況を説明するための，語彙や話型を提示するなど工夫が必要だ。

参考文献

田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸（2011）「推論発問を取り入れた英語リーディング指導深い読みを促す英語授業」三省堂

中嶋洋一・直山木綿子・久保野雅史（2017）「『プロ教師』に学ぶ真のアクティブ・ラーニング“能働”的な英語学習のすすめ」開隆堂出版

田中武夫・田中知聡（2010）「英語教師のための発問テクニック英語授業を活性化するリーディング指導」大修館書店

田尻悟郎（2017）「田尻悟郎の英語教科書本文活用術！」－知的で楽しい活動＆トレーニング集－教育出版株式会社

研究（その３）

自律的学習者が育つ英語授業

― リテラチャー・サークルの実践を通して ―

（実践者）河野　圭美

１　研究テーマ設定の理由

多様な文化や異なる歴史的背景を持つ人々を理解し，主体的に社会や世界と関わっていこうとする態度を育成するために，学んだことを積極的に使っていき，更にそれらを伸長させようとする自律的学習者を育成することが大切である。

昨年度の３年生における研究では，教科書本文の指導において，問答ゲームや話型を活用したディスカッション，フリーレスポンスなどの活動を通して，「読む」活動から「話す」活動につなげることで，インタラクティブなリーディング指導を行った。より現実的，実践的な言語活動において，論理的思考力と表現力を育成することで，多くの生徒はコミュニケーションの楽しさを味わい，少しずつ自信を持って即興で自分の気持ちや考えを表現することができるようになった。

本年度は，リテラチャー・サークルの実践を行い，より「主体的・対話的で深い学び」を通して，人と関わり合うことの楽しさや素晴らしさを味わわせたり，コミュニケーション能力を高めたりしながら研究テーマに迫りたい。

２　研究の内容及び方法

２年間，以下の(1)～(3)の実践を通して自律的学習者を育てる指導を行ってきた。

(1)　論理的に思考し表現する学び合いの工夫

論理的に思考し表現する力を高めるために，英語で問答ゲームを行ったり，教科書本文の内容理解の際，６Ｗ１Ｈを意識させて生徒自身に質問を作らせたりする。また，話型を取り入れてコミュニケーションの型を教え，徐々に話型なしでコミュニケーションができるように指導する。

(2)　コミュニケーション能力を高める学習指導

教科書本文を学ぶ際，パフォーマンステストやリテリング，感じたり思ったりしたことを自由に表現するフリーレスポンスの活動などを取り入れる。これらの活動を通して，自分の意見や考えを積極的に表現できる力を身に付ける。

(3)　パフォーマンス評価の充実

年に６回パフォーマンステストを計画しており，その内容は日本文化についてＡＬＴに紹介するものや尊敬する人物紹介などである。その際，評価規準を明確にした評価表を生徒に用いさせる。課題解決に向けて，自ら学んでいこうとする態度や姿勢が身に付くと共に，コミュニケーション技術も高まり，相手に分かりやすく自分の意見や考えを伝えることができるようになる。

本年度も以上の実践を続け，身に付けた力を発揮させるリテラチャー・サークルを行い，協働学習での深い学び合いを通して，更にレベルの高いコミュニケーションを目指す。リテラチャー・サークルとは，生徒それぞれが小グループの中で異なった役割を果たしながら，教科書本文の内容について語り合う指導方法である。生徒が主体的に教科書本文の内容について英語で話し合い，理解を深めるものである。

具体的には，３年生を対象に10月から教科書の本文を用いて，セクションごとにそれぞれの役割について一つずつ練習し，やり方を理解させた。それぞれの役割について理解し英語だけで活

動ができるようになったら，11月から４回リテラチャー・サークルを行った。リテラチャー・サークル後の振り返りシートやワークシートの分析から，生徒にどのような影響があったか見取る。

３　研究の実際

(1)　単元名　Lesson 7 The Diary of Anne Frank（TOTAL ENGLISH 3）

(2).「逆向き設計テンプレート」による単元計画

第１段階：求められている結果		
【本単元における目標】 ○間接疑問文やas soon as ～，too ～ to…, so ～ that…などの表現について理解し，運用することができる。 ○本文を読みグループで学び合う活動を通して，アンネの考えを理解し，戦争や平和について自分の考えを相手に分かりやすく表現することができる。		
【本質的な問い】 本文を読み，アンネの考えや心情について理解を深めるにはどうしたらよいか。		
【永続的な理解】 本文を読んで理解を深めるには，読んで分かったことや思ったことを友達に説明することが大切である。その中で，理解していることや理解できないことについて共有したり，質問し合ったりすることで学びが深められる。 アンネの考えや心情に迫るには，読み取ったことについて自分の考えを表現したり，友達の意見を聞き合ったりして，自分の考えを深めることが大切である。また，当時の背景知識について学ぶことも必要である。 自分の考えを相手に分かりやすく表現するには，アイコンタクトや声の大きさなどのコミュニケーションスキルの向上に加え，今までに学習した表現を用いて，分かりやすい英文で表現することが大切である。		
【生徒は次のことができるようになる】 ○アンネの考えや生き方，戦争と平和について，自分の意見や感想を聞き手に分かりやすく表現できる。 ○友達の意見や感想を聞いて，応答することができる。 ○リテラチャー・サークルを通して，生徒同士が英語だけを使って，本文の内容理解を深めることができる。		
第２段階：評価のための証拠		
【パフォーマンス課題】 あなたは世界各国から中学生が集まって，「戦争と平和」というテーマについて英語で話し合う中学生国際会議に参加しています。グループごとに分かれて，話し合ったことをポスターにまとめて発表してもらいます。その際，自分の考えを発表したり，他の生徒の発表したことについてコメントを述べたりしなければなりません。今までに学習した表現をできるだけ使い，自分の考えをはっきり述べなさい。		
【他の根拠】 ○リテリングの発表の様子　○ペアでのＱ＆Ａの活動の様子　○ワークシートによる記述　○自己評価表		
第３段階：学習計画（全７時間）		
1	間接疑問文，as soon as ～，too ～ to…, so ～ that…を用いた文構造を理解する。導入として，アンネたちが隠れ家に移り住むまでのＤＶＤを視聴する。	２時間
2	Lesson ７Ａ～７Ｄを読み，本文の内容を理解する。また，アンネの考えを理解すると共に，アンネの考えや生き方，戦争や平和について，自分の考えを述べる。	５時間

(3)　指導の実際（３／７時間）

Lesson ７Ａ（76語）でリテラチャー・サークルを行った実践について述べる。まずは本文の内容理解と音読練習を十分に行った。小グループ（一班４人）になり，それぞれの生徒に以下の四つの役割を与えた。

サマライザー	本文を読んで，要約（本文を３分の２から２分の１に減らす）を行う。話し合いの進行も簡単な英語で行う。
イラストレーター	本文を読んで，重要な場面や印象深い場面のイラストを描く。描いた絵を他のメンバーに見せ，メンバーが英語で説明する。足りない部分はイラストレーターが英語で補足する。
クエスチョナー	本文を読んで２，３個質問を作る。グループに質問を投げかけ，他のメンバーは英語で答える。
コネクター	本文を読んで，内容と自分自身の経験，学校や社会での出来事とのつながりを話し，他のメンバーが応答したり質問したりして議論する。

それぞれが担当する役割の基本的な理解は授業中に確認し，話合いへの準備は家庭学習で行わせた。リテラチャー・サークルを行う前に，ジグソー学習を取り入れた。各グループから同じ役割の学習者が集まり，３～４人のグループを作る。同じ役割の学習者同士で話し合い，分からなかったところを聞き合ったり，友達とアドバイスをし合ったりして更に良い内容にさせた。また発表の練習も行い，それぞれのグループに戻ったとき自信を持って発表できるようにさせた。その後リテラチャー・サークルを15分間行い，教科書本文の内容について理解を深めた。ジグソー学習やリテラチャー・サークルでは英語だけで話し合いができるよう，話型を与えた。

(4) 生徒の学びの実際

リテラチャー・サークルのときの四つの役割のワークシート（**資料１～４**）は以下のとおりである。

Literature Circles Role Sheet

Summarizer

Your job is to summarize today's reading.
You reduce the words to half from two thirds. You can also express the sentence in different words. It's important to find what the author wanted to say.

Saturday, June 20, 1942

Anti-Jewish laws have many rules to remember.

We must wear a yellow star.

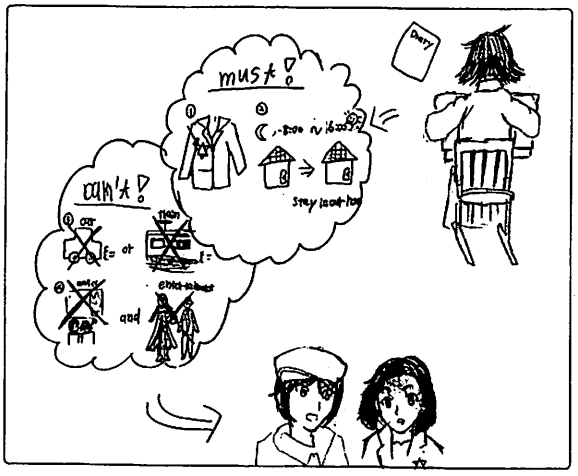
We can't use the train and ride in cars.

We must stay in our homes from 8 p.m. to 6 a.m.

We can't go to any kinds of entertainment.

My friend says, "I can't do anything because I'm afraid nothing is allowed."

資料１　サマライザーのワークシート



資料２　イラストレーターのワークシート

Literature Circles Role Sheet

Questioner

Your job is to make some questions about today's reading.
Please make one true/false, one Yes/No and one Wh question.
The best questions come from your own thoughts, feelings and concerns as you read.

1.Q They must wear a blue star.
A False.
2.Q Could they go to entertainment places?
A No, they couldn't.
3.Q How long did they have to stay in their homes?
A For ten hours.

資料３　クエスチョナーのワークシート

Literature Circles Role Sheet

Connector

Your job is to find connections between the today's reading part and you, and between the today's reading part and the world.
Connect today's reading part to
- Your own past experiences
- Happenings at school or at home
- Stories in the news

In 1942, Anne and other Jewish people had to wear a yellow star. They couldn't do anything because the Germans discriminated against them. Anne was just thirteen years ～を差別する
old. But she couldn't go to theaters, movies and so on.
I couldn't live in that kind of situation. But today, (差別) (飢餓) (テロリズム)
there are many troubles like discrimination, hunger and terrorism around the world. So I think we have to know more about these troubles.

資料４　コネクターのワークシート

話型　in ジグソー学習

Summarizer
- This sentence is not right. You should say " ".
- This question is interesting / good.
- I like this question. Can I use it?
- You should write like this.
- You should add " ".

Illustrator
- You should draw the picture of ～.
- Your picture is wonderful.
- I like this one.
- What's this?
- I can understand what this picture shows.

Questioner
- This sentence is not right. You should say " ".
- This question is interesting / good.
- I like this question. Can I use it?
- You should write like this.
- You should add " ".

Connector
- This sentence is not right. You should say " ".
- This sentence is interesting / good.
- I like this sentence(phrase). Can I use it?
- You should write like this.
- You should add " ".

ジグソー学習のための話型



リテラチャー・サークルの様子

〈生徒の感想〉
○自分の役割を果たすために，教科書を何度も読むことができた。
○グループでの話合いを通して自分の考えていなかった部分に踏み込んでいくことで，違う角度からもストーリーを味わえたり，表現の幅が広がったりした。
○班のみんながしっかりと自分の考えを述べていて，参考になる話し方などあり，新たな発見になった。
○班のみんなが一人一人の役割を果たしていく中で，物語に対する自分たちの考えを見い出していく活動は興味深く楽しいものでした。
○他の人の考えや意見を聞くことで，自分の考えを整理したり，更に深めたりすることができた。
○英語でコミュニケーションを図る喜びを感じることができた。
○友達の発表を聞いて自分のコメントを言うので，聞く力や話す力が身に付いた。
○リテラチャー・サークルを行うごとに，毎回英会話能力が高まっていると感じる。今後も続けてほしい。
○自分の役割は果たせたが，相手への反応が難しかった。次は的確に相手に自分の考えを伝えたい。

4　成果と課題

教科書本文の指導において，教師主導の指導から学習者が主体的に学ぶ指導方法を模索してきた。その中で，生徒が生き生きと英語を話す姿，真剣に教材に向き合う姿，生徒が英語を使って理解を深めていく姿を目指して研究してきた。リテラチャー・サークルを知り，試行錯誤を繰り返しながら研究・実践を行ってきた。リテラチャー・サークルは，生徒が主体となり，教科書本文を主に英語だけで理解を深めていく活動であるため，実施するまでに様々な工夫を通して英語でコミュニケーションをする力を身に付けさせる必要があった。

問答ゲームでは話型を用いて話す練習を行わせることで，論理的に話すことができるようになった生徒が増えた。型を超えて自分の言葉で豊かに表現できるようになった生徒もいる。パフォーマンステストやリテリング，フリーレスポンスの活動を継続して行うことで，生徒は，自分の意見や考えを積極的に伝えることができるようになったり，会話を即興で継続してできるよ

うになったりした。パフォーマンス評価を行うことで，課題や次への目標が見付かり，表現力の高まりが見られた。生徒は回を増すごとに自信を付け，コミュニケーションを楽しんで行うようになった。

これらの力をリテラチャー・サークルの活動で発揮させ，効果を感じることができた。まずはそれぞれの生徒が役割を与えられることで，責任感が生じ，主体的に学習に取り組むようになった。自分の学習が他のメンバーの役に立ったと実感できたときや，話合い活動全体がうまく進んだときに達成感や自己効力感を得ることができた。また，生徒はコミュニケーション能力が高まっていると感じており，語彙や文法，読む力が伸びている。さらに教材を何度も繰り返し読んだり，自分とは別の角度から読んだ友達の発表を聞いたりすることで，内容の深い理解につながった。また読み方や考え方も身に付けることになり，論理的に思考し，表現できる力を育成することができた。このようにリテラチャー・サークルの実践は，人と協力し合うことの大切さや価値に生徒自身が気付き，仲間との学び合いの中でコミュニケーション能力が高められることで，自律的学習者を育成することができた。

今後は，リテラチャー・サークルの実践によって得られる効果が確かなものとして把握できるよう，ライティングやスピーキングテスト，発話分析なども行っていきたい。またＡＬＴとのティーム・ティーチングで行ったり，「書く」活動にもつなげ，文法の正確さなどにも意識を向かわせたりすることによって，コミュニケーション能力の向上を目指したい。

研究を通して，さまざまな問題を抱える現代でも，積極的に自分の生き方や人との関わり方を考え，豊かな心でたくましく生きていく生徒を育成していきたいと感じた。授業での実践を通して，そのような生徒を育成することが平和な社会を築いていくための一助となることを願う。

第３章　おわりに

論理的思考力を高めるために，学校全体の取組として，問答ゲームを週１回行っている。英語科では，そのことを生かして，相手に自分の意見を伝えるときは，主語と動詞が整った英文を使うこと，相手と対話するときには，６Ｗ１Ｈを意識して質問することを言語活動の中で指導してきた。単なるスピーチや説明だけに終わることなく，英語を介してお互いにやり取りや意見交換ができる能力を身に付けさせたい。２年生では，内容を深く理解し，その内容について質問させる活動，３年生では，テーマについて意見交換させる活動を行い，論理的思考力と表現力が向上するよう実践を積み重ねた。その結果，英語科については，質問する，理由や根拠を含めて意見を述べるなど表現の型の定着は見られたが，語彙力の少なさによって表現する内容の質が高まらないという課題もあった。

３年間の成果として，自分の意見や考えを進んで英語で言えるようになった生徒が増えた。このことは，意見交換ややり取りの話型を含めた表現を実践の中に取り入れ，生徒が使うことによって，英語でコミュニケーションを図るためのスキルや英語を使いたいと思う意欲，自分の英語が相手に伝わるという自信が高まったためと思われる。